

基礎看護学

目標 I 看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
1 看護の基本となる概念	A 看護の本質	2	a 看護の定義	0	看護学概論 1章1節1項 看護とは (p.18-19)
			b 役割と機能	0	看護学概論 1章1節2項 看護の役割 (p.19-24), 5節1項 看護に対する社会の要望と期待 (p.47-50) 看護管理 1章1節2項 日本の社会制度における看護職の位置付け (p.12-13)
			c 職業としての看護	1	看護学概論 1章3節 看護実践のための基準 (p.30-37), 4節3項 現代の看護 (p.41-47) 看護管理 1章1節4項 看護が行われる場と活動 (p.14-15)
			d 学問としての看護	0	看護学概論 1章2節 実践科学としての看護 (p.24-30) 看護研究 1章1節1項 研究とは何か (p.10) / 3章1節1項 研究の成果は何に役立つか (p.34-35) 地域療養を支えるケア 9章2節1項 在宅看護における事例検討会と看護研究 (p.270-273)
			e 看護の変遷	1	看護学概論 1章4節 看護の変遷 (p.37-47)
	B 看護の対象	4	a 全体 (whole) としての人間	0	看護学概論 2章1節 統合体としての人間 (p.58-62)
			b 成長・発達する存在	0	看護学概論 2章1節4項 成長・発達する存在 (p.62)
			c ニーズをもつ存在	1	看護学概論 2章1節3項 動機付けられる存在 (ニーズをもつ存在) (p.60-61)
			d 生活を営む存在	0	看護学概論 2章1節1項 人間の生物学的基盤 (p.58-60)
			e 適応する存在	2	看護学概論 2章4節 ストレスと適応 (p.66-77)
			f 社会・文化的存在	0	看護学概論 2章2節 個人, 家族, コミュニティ, 地域社会 (p.62-63)
			g ライフサイクルと発達課題	1	看護学概論 4章 ライフサイクルと健康 (p.92-102)
	C 健康と生活	4	a 健康のとらえ方	2	看護学概論 3章1節 健康・病気のとらえ方の変遷 (p.80-82) 臨床看護総論 1章2節3項 健康の意味を正しくとらえる (p.12-14), 3節3項 健康レベル (p.15-16)
			b 健康の諸相	0	看護学概論 3章3節 看護における健康と病気 (p.86-89)
			c 健康への影響要因	1	看護学概論 3章2節 健康に影響を及ぼす要因 (p.83-86)
			d 生活習慣とセルフケア	1	看護学概論 3章3節1項 セルフケアと健康 (p.87)
			e QOLの維持と向上	0	看護学概論 6章3節1項 個人のもつ価値 (p.129)
	D 看護における倫理	4	a 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	0	看護学概論 1章3節3項 看護者の倫理綱領 (p.31-34) / 資料 世界人権宣言 (仮訳) (p.279-281) 看護研究 7章1節 倫理とは何か (p.126-127)
			b 医療の倫理原則	0	看護学概論 6章2節 看護における倫理の必要性 (p.126-128) 看護研究 7章1節 倫理とは何か (p.126-127), 3節1項 五つの権利 (p.130-132), 6項 研究活動や看護実践における倫理に反する行為の例 (p.134) 看護をめぐる法と制度 9章1節2項 生命倫理の基本原則 (p.348-350), 3節 研究倫理 (p.355-361) 臨床看護総論 3章6節3項 医療実践における倫理: 医療者としての責務と患者の権利 (p.157-158) 看護管理 4章1節3項 倫理的葛藤 (p.117-118)

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
1 看護の基本となる概念	D 看護における倫理	4	c 患者の権利と擁護	4	看護学概論 1章5節1項 看護に対する社会の要望と期待 (p.48-49) / 6章2節3項 看護研究における倫理 (p.127-128), 5節2項 倫理的判断に必要な基本的知識 (看護倫理で活用する判断基準) (p.134-136) / 資料 患者の権利章典 (全米病院協会, 1973年) (p.281) 看護研究 7章1節 倫理とは何か (p.126-127), 3節1項 五つの権利 (p.130-132), 2項 人権擁護の方法 (p.132-133) 臨床看護総論 3章6節3項 医療実践における倫理: 医療者としての責務と患者の権利 (p.157-158) 基礎看護技術 2章4節4項 ベイシエントアドボカシーとしての活動 (p.37-38) 看護管理 4章1節1項 看護実践倫理 (p.110-114)
			d 倫理綱領	0	看護学概論 1章3節3項 看護者の倫理綱領 (p.31-34) 看護研究 7章2節 看護研究における倫理ガイドラインの開発 (p.127-129)
			e 倫理的葛藤と対応	0	看護学概論 6章4節 道徳的ジレンマと倫理的課題 (p.130-131), 5節 倫理的課題への対応 (p.131-142) 看護研究 7章3節5項 研究のリスクと利益の考え方 (p.134) 看護をめぐる法と制度 9章 法と生命倫理 (p.347-361)
2 看護の展開	A 対象との関係の形成	6	a 信頼関係	4	看護学概論 7章1節1項 患者と看護師のコミュニケーション (p.146-147) 基礎看護技術 2章 人間関係を成立・発展させるための技術 (p.18-38)
			b 援助関係	1	看護学概論 7章2節 支援者, 代弁者としての役割 (p.152-153), 3節 教育者およびカウンセラーとしての役割 (p.153-155) 基礎看護技術 2章1節2項 看護学でコミュニケーションを学ぶ意義 (p.19)
			c 協働関係	1	基礎看護技術 2章3節 対人関係の振り返り (p.28-33) 医療安全 4章1節 患者・家族との協同 (p.100-110)
	B 基盤となる思考過程	5	a 根拠に基づいた看護 (EBN)	1	看護学概論 7章4節 根拠に基づいたケア (p.155-160) 看護研究 3章1節2項 根拠に基づく実践 (p.35-37) 臨床看護総論 3章7節1項 臨床看護を学ぶための理論 (p.163)
			b クリティカルシンキング	3	看護学概論 8章2節1項 看護過程の五つの要素を正確に理解する (p.165-166) 基礎看護技術 3章1節2項 患者と家族のセルフケアを支援する活動 (p.42-50) 看護研究 6章2節 クリティックするために必要な能力 (p.118-119)
			c 問題解決過程	1	看護学概論 8章 看護過程 (nursing process) (p.162-167) 臨床看護総論 1章4節1項 臨床判断プロセスの詳細 (p.18-19)
	C 看護における連携と協働	3	a 看護の継続性	0	看護学概論 11章2節 看護の継続性 (p.225-228)
			b 看護職間の連携と協働	0	看護学概論 11章1節1項 チームアプローチ (p.222)
			c 多職種間の連携と協働	1	看護学概論 11章1節1項 チームアプローチ (p.223) 臨床看護総論 3章6節1項 多職種の連携と協働に必要なこと (p.153-154) 看護管理 2章1節2項 医療機関の組織構造 (p.37-40) 看護をめぐる法と制度 1章2節 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み (p.35-39)
			d チームでの活動	2	看護学概論 11章1節 看護におけるチームアプローチ (p.222-225) 臨床看護総論 3章1節3項 チーム医療の機会 (p.105-108), 5節4項 病棟を例にした看護師の仕事: チームで行う看護 (p.150-151) 看護をめぐる法と制度 1章2節 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み (p.35-39)

必修問題

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と社会保険制度

基礎看護学

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

在宅看護論

看護の統合と実践

目標Ⅱ

基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
3 看護における基本技術	A コミュニケーション	9	a コミュニケーションの構造とプロセス	1	基礎看護技術 2章1節 コミュニケーション技術 (p.18-25) 看護学概論 7章1節 コミュニケーターとしての役割 (p.146-152)
			b コミュニケーション技法	4	基礎看護技術 2章2節 看護場面での効果的なコミュニケーション技術 (p.25-28), 4節1項 援助過程とコミュニケーション (p.33-35) ヘルスアセスメント 2章3節3項 問診技法 (p.25-26)
			c コミュニケーションに障害のある人々への対応	4	基礎看護技術 2章1節6項 言語的コミュニケーション (p.21-22) 地域療養を支えるケア 8章10節 壮年期のALS療養者：難病 (p.255-256) 災害看護 5章5節 障害者に必要な支援と看護 (p.120)
	B 学習支援	3	a 学習に関わる諸理論	1	基礎看護技術 3章2節 カウンセリング (p.54-61) セルフマネジメント 1章1節3項「指導型」の教育から「学習援助型」の教育へ (p.15-16) / 3-1章1節 成人教育学の基本的な考え方 (p.40)
			b 対象者に合わせた目標設定	0	基礎看護技術 3章1節1項 看護における教育的支援 (p.42), 2項 患者と家族のセルフケアを支援する活動 (p.42-50)
			c 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫	1	基礎看護技術 3章1節4項 看護における指導技術 (p.52-53), 2節 カウンセリング (p.54-61)
			d 個別指導・集団指導の特性と適用	1	基礎看護技術 3章1節4項 看護における指導技術 (p.52-53)
	C 看護過程	7	a 情報の種類・収集方法、情報の分析・統合	4	ヘルスアセスメント 7章2節2項 ゴードンの11の機能的健康パターンを用いた情報の整理 (p.326-337) 基礎看護技術 9章2節 アセスメント (p.166-183)
			b 看護問題の明確化と優先順位決定	1	看護学概論 7章4節1項 問題を明確化して看護ケアを行う (p.156) / 8章2節2項 優先順位のつけ方 (p.166) 基礎看護技術 9章3節 問題の明確化：看護診断と優先順位の決定 (p.183)
			c 看護目標の設定と計画	2	ヘルスアセスメント 7章2節 事例を用いた記録方法と看護計画 (p.322-343) 基礎看護技術 9章4節 看護計画 (p.184-186)
			d 実施	0	ヘルスアセスメント 7章2節4項 実施・評価 (p.343) 基礎看護技術 9章5節 実施 (p.186)
			e 評価	0	ヘルスアセスメント 7章2節4項 実施・評価 (p.343) 基礎看護技術 9章6節 評価 (p.186-187)
	D 看護情報管理	1	a 医療情報と看護情報	0	看護をめぐる法と制度 4章2節1項 医療法 (5) 診療記録 (p.185-186) / 6章4節 情報政策に関する法律 (p.284-289) 基礎看護技術 7章1節3項 安全管理対策 (p.141)
			b 看護における情報管理	0	看護をめぐる法と制度 6章4節 情報政策に関する法律 (p.284-289) 基礎看護技術 9章2節2項 アセスメントの技術 (p.170), 7節 看護記録の作成と管理 (p.187-189)
			c 看護情報の記録・報告と共有	1	基礎看護技術 9章2節2項 アセスメントの技術 (p.168), 7節 看護記録の作成と管理 (p.187-190)
	E フィジカルアセスメント	18	a 看護におけるフィジカルアセスメントの意義	4	ヘルスアセスメント 1章 ヘルスアセスメントと看護の役割 (p.12-17) / 7章1節 フィジカルアセスメントを活用する (p.322) 基礎看護技術 4章4節1項 フィジカルアセスメントテクニック (p.82-83)
			b 医療面接(インタビュー、問診)	0	ヘルスアセスメント 2章3節 問診 (p.24-26) 基礎看護技術 9章2節2項 アセスメントの技術 (p.169)
			c 身体診察(視診、触診、聴診、打診)の基本	5	ヘルスアセスメント 2章4節 視診、触診、打診、聴診 (p.27-30) 基礎看護技術 4章4節1項 フィジカルアセスメントテクニック (p.82-83)

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
3 看護における基本技術	E フィジカルアセスメント	18	d 全身の診察(全身の観察、バイタルサイン)	1	ヘルスアセスメント 2章5節 バイタルサインの測定 (p.31-41) 基礎看護技術 4章 生命の徴候を観察する技術 (p.64-94)
			e 系統別のフィジカルアセスメント	6	ヘルスアセスメント 3章 系統別のアセスメント (p.44-198) 基礎看護技術 4章4節3項 フィジカルアセスメントのチェックリスト (p.84-93)
	F 感染防止対策	17	a 感染の成立と予防	2	基礎看護技術 6章1節 感染予防の意義 (p.108), 3節 感染症を成立させる要素と成立過程 (p.111-116)
			b 標準予防策(スタンダードプリコーション)と感染経路別予防策	3	基礎看護技術 6章6節 感染予防のための援助方法 (p.131-133) 医療安全 7章2節 感染に対する標準予防策と感染経路別予防策 (p.184-187)
			c 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作	8	基礎看護技術 6章4節 感染症を予防するためのプロセス (p.117-128)
			d 感染性廃棄物の取り扱い	3	基礎看護技術 6章4節7項 その他の援助技術 (p.128-130) / 19章7節1項 感染予防(医療廃棄物の取り扱い) (p.429-430) 看護をめぐる法と制度 6章10節3項 生活環境を保全(環境衛生や関連営業の衛生)するための法律(4) 廃棄物処理法 (p.323-325)
			e 感染拡大の防止の対応	1	基礎看護技術 6章8節1項 感染症発症時の対応策 (p.134-135) 看護をめぐる法と制度 4章2節4項 感染症法 (p.191-193)
	G 安全管理(セーフティマネジメント)	10	a 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント)	2	基礎看護技術 7章1節 医療安全の意義と確保 (p.138-142) 医療安全 1章 医療安全と看護の理念 (p.12-28)
			b 誤薬の起こりやすい状況と対策	0	基礎看護技術 7章4節 誤薬の予防策 (p.146-147) 医療安全 5章2節1項 誤薬 (p.123-133)
			c 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	2	基礎看護技術 7章2節2項 転倒・転落の予防策 (p.143-144) 医療安全 5章2節4項 転倒転落 (p.137-146)
			d チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	3	基礎看護技術 7章3節 外傷, チューブ・ライントラブルの予防策 (p.145-146) 医療安全 5章2節9項 チューブ類のトラブル (p.157-161)
			e 針刺しの起こりやすい状況と対策	2	基礎看護技術 6章4節7項 その他の援助技術 (p.129-130) 医療安全 5章2節3項 針刺し (p.136-137)
	H 安楽の確保	10	a 安楽の概念	0	基礎看護技術 17章1節 安楽の意義 (p.354)
			b ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	3	基礎看護技術 8章2節 ボディメカニクス (p.160-163)
			c 安楽な姿勢・体位の保持	6	基礎看護技術 8章1節 安楽な体位 (p.152-159)
			d 安楽を提供するためのケア(マッサージ、痛みの軽減、電法)	1	基礎看護技術 17章2節2項 身体的援助 (p.356-357), 3項 精神的援助: 傾聴, タッチング (p.357), 3節 安楽を確保する方法 (p.357-367)
			e 安楽を保つための療養環境の調整	0	基礎看護技術 5章2節 環境を整える技術 (p.96-104) / 17章2節1項 医療環境の調整 (p.355-356)
	I 終末期のケア	7	a グリーフケア	2	基礎看護技術 22章6節2項 遺族への関わり (p.479-480) 災害看護 5章8節2項 遺族への看護 (p.144-146)
			b 死亡後のケア	4	基礎看護技術 22章6節1項 死後のケア (p.476-479) 緩和ケア 8章5節 臨終後のケア (p.250-252)
	4 基本的日常生活援助技術	A 環境の調整	4	a 環境調整の意義	0
b 療養環境のアセスメント				0	基礎看護技術 5章3節 環境のアセスメント (p.104)
c 療養環境の調整と整備				4	基礎看護技術 5章2節 環境を整える技術 (p.96-104), 3節 環境のアセスメント (p.104)
B 食事と栄養		20	a 食事と栄養の意義	0	臨床栄養学 1章1節 臨床栄養学の意義と看護 (p.10-11) 基礎看護技術 13章1節 食事・栄養の意義 (p.264-265)

必修問題

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と社会保障制度

基礎看護学

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

在宅看護論

看護の統合と実践

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
4 基本的日常生活援助技術	B 食事と栄養	20	b 健康な食生活と食事摂取基準	7	基礎看護技術 13章3節1項 栄養素 (p.269-270), 2項 食事摂取基準 (p.270-274) 臨床栄養学 2章2節 日本人の食事摂取基準 (2020年版) (p.64-84) / 3章3節 人生各期における健康生活と栄養 (p.99-122)
			c 治療食、療養食	2	基礎看護技術 13章3節3項 病院における食事 (p.274-276) 臨床栄養学 4章 療養生活と栄養 (p.125-150) / 5章 疾患別の食事療法 (p.151-182)
			d 食事と栄養に影響する要因	0	基礎看護技術 13章2節 食事に関する生理学的メカニズム (p.265-269)
			e 食事と栄養のアセスメント	3	ヘルスアセスメント 6章3節2項 栄養/代謝パターンのアセスメント (p.276-290) 基礎看護技術 13章4節 栄養状態のアセスメント (p.276-278) 臨床栄養学 1章3節 栄養アセスメント (p.43-50)
			f 食事摂取の自立困難な人への援助	0	基礎看護技術 13章5節2項 経口栄養の援助 (p.279-283)
			g 嚥下障害のある人への援助	1	基礎看護技術 13章5節2項 経口栄養の援助 (p.279-283) 臨床栄養学 4章3節 嚥下障害のある人のための食事 (p.138-144)
			h 経管・経腸栄養法	4	基礎看護技術 13章5節3項 経管栄養の援助 (p.284-287) 臨床栄養学 4章4節1項 経管栄養 (p.145-147)
			i 経静脈栄養法	3	基礎看護技術 13章4節2項 中心静脈栄養法 (p.148-150) 臨床栄養学 4章4節2項 中心静脈栄養 (p.148-150)
			C 排泄	15	a 排泄の意義
	b 排泄に影響する要因	1			基礎看護技術 14章2節 排尿・排便の生理学的メカニズム (p.290-292), 4節 排尿・排便障害の種類 (看護診断) (p.295-297)
	c 排泄のアセスメント	2			ヘルスアセスメント 6章3節3項 排泄パターンのアセスメント (p.285-290) 基礎看護技術 14章3節 排尿・排便のニーズのアセスメント (p.292-295)
	d 自然な排泄を促す援助	0			基礎看護技術 14章5節5項 自然排尿・排便を促す方法 (p.306)
	e トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助	1			基礎看護技術 14章5節3項 ポータブルトイレ, トイレでの援助 (p.303-304)
	f 床上での排泄の援助	0			基礎看護技術 14章5節1項 床上での排尿・排便の援助 (p.298-300)
	g 自然な排泄が困難な人への援助	8			基礎看護技術 14章5節6項 導尿 (p.306-310), 7項 浣腸 (p.310-312), 8項 摘便 (p.312-313)
	h 尿失禁、便失禁のある人への援助	2			基礎看護技術 14章5節2項 尿失禁・便失禁のある患者のおむつを用いた援助 (p.301-302)
	D 活動と運動	5			a 活動と運動の意義
			b 活動と運動に影響する要因	0	基礎看護技術 10章2節 活動・運動の生理学的メカニズム (p.192-195)
			c 活動と運動のアセスメント	1	基礎看護技術 10章3節 活動・運動のニーズのアセスメント (p.195-198) ヘルスアセスメント 6章3節4項 活動/運動パターンのアセスメント (p.290-297)
			d 活動と運動を促す援助	3	基礎看護技術 10章5節 活動・運動を支援する援助の実際 (p.200-217)
e 療養生活におけるレクリエーション			0	基礎看護技術 11章5節1項 休息の援助技術 (p.230-231)	

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
4 基本的日常生活援助技術	E 休息と睡眠	3	a 休息と睡眠の意義	0	基礎看護技術 11章1節 休息・睡眠の意義 (p.220-221)
			b 休息と睡眠に影響する要因	0	基礎看護技術 11章2節 休息・睡眠の生理学的メカニズム (p.221-226)
			c 休息と睡眠のアセスメント	1	基礎看護技術 11章3節 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント (p.227-228), 4節 休息・睡眠の障害 (看護診断) (p.228-229) ヘルスアセスメント 6章3節5項 睡眠/休息パターンのアセスメント (p.298-300)
			d 休息と睡眠を促す援助	2	基礎看護技術 11章5節 休息・睡眠を促す援助の実際 (p.230-233)
	F 清潔と衣生活	6	a 清潔と衣生活の意義	0	基礎看護技術 12章1節 清潔の意義 (p.236)
			b 清潔と衣生活に影響する要因	1	基礎看護技術 12章2節 皮膚・粘膜の生理学的メカニズムとケア (p.236-241), 3節3項 清潔のニーズを阻害する要因 (p.243), 4節 障害の種類 (看護診断) (p.244)
			c 清潔と衣生活のアセスメント	0	基礎看護技術 12章3節 清潔のニーズのアセスメント (p.242-243)
			d 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助	2	基礎看護技術 12章5節 清潔の援助方法 (p.245-261)
5 診療に伴う看護技術	A 呼吸・循環、体温調整	17	a 呼吸・循環、体温調整のアセスメント	2	基礎看護技術 15章3節 呼吸のニーズに関するアセスメント (p.318-321)
			b 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	1	基礎看護技術 15章5節 呼吸を楽にする援助 (p.322-337)
			c 血圧・血流を保持する姿勢	2	基礎看護技術 8章1節5項 体位と生理学的要素との関係 (p.153-155)/10章2節2項 体位変化とバイタルサイン (p.193-195)
			d 酸素吸入の適応と方法	6	基礎看護技術 15章5節4項 酸素療法 (p.331-336), 5項 人工呼吸 (p.336-337)
			e 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法	2	基礎看護技術 15章5節3項 吸入療法 (p.328-331)/18章4節3項 吸引 (p.392-395)
			f 排痰法の適応と方法	2	基礎看護技術 15章5節2項 痰を嚙出させる方法 (p.324-328)
			g 体温調整のための方法	2	基礎看護技術 16章 体温を調節する技術 (p.340-351)
	B 皮膚・創傷管理	11	a 創傷の治癒過程	5	基礎看護技術 20章2節 創傷の分類と治癒過程 (p.436-437)
			b 創傷のアセスメント	1	基礎看護技術 20章2節 創傷の分類と治癒過程 (p.436-437), 4節1項 創傷処置 (p.440-442)
			c 洗浄・保護・包帯法	1	基礎看護技術 20章4節 創傷の管理 (p.440-448)
			d 褥瘡の予防と治癒の促進	4	基礎看護技術 20章3節 褥瘡の管理 (p.438-440)
	C 与薬	18	a 与薬における看護師の役割	3	基礎看護技術 19章1節 与薬とは (p.400), 2節 与薬における法的根拠 (p.400-401), 4節1項 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度 (p.405-406)
			b 薬剤の種類と取り扱い方法	7	基礎看護技術 19章2節 与薬における法的根拠 (p.400-401), 3節6項 薬剤の種類 (p.404-405) 臨床薬理学 1章1節 医薬品 (p.12-18)
			c 与薬方法と効果の観察	8	基礎看護技術 19章4節2項 与薬法 (p.407-409), 5節 注射のための援助技術 (p.414-425)
	D 輸液・輸血管理	3	a 輸液・輸血の種類と取扱い方法	1	基礎看護技術 19章5節3項 注射の実際 (p.418-425), 6節1項 安全かつ適正な輸血のための基礎知識 (p.426)
b 輸液・輸血の管理方法			0	基礎看護技術 19章5節3項 注射の実際 (p.418-425), 6節2項 輸血の実際 (p.427-429)	
c 輸液・輸血の副作用 (有害事象) の観察			2	基礎看護技術 19章5節3項 注射の実際 (p.423), 6節2項 輸血の実際 (p.429)	

必修問題

人体の構造と機能

疾病の成り立ちと回復の促進

健康支援と社会保障制度

基礎看護学

成人看護学

老年看護学

小児看護学

母性看護学

精神看護学

在宅看護論

看護の統合と実践

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
5 診療に伴う看護技術	E 救命救急処置	11	a 生命の危機的状況のアセスメント	1	基礎看護技術 21章1節 救急時における迅速な介入の必要性 (p.450), 2節 救急時における看護者の役割 (p.451)
			b 一次救命処置〈BLS〉	5	基礎看護技術 21章3節 一次救命処置 (p.452-460)
			c 止血法	4	基礎看護技術 21章4節 応急処置 (p.460-462)
	F 生体機能のモニタリング	28	a 診察・検査時の看護師の役割	3	基礎看護技術 18章1節 検査とは (p.370-371), 4節1項 治療・処置時の患者の理解と看護者の役割 (p.390-391)
			b 検体検査(血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液)	8	基礎看護技術 18章3節7項 尿・便・喀痰検査 (p.380-382), 8項 血液検査 (p.382-384), 9項 穿刺法 (p.384-388)
			c 生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)	6	基礎看護技術 18章3節1項 X線単純撮影検査 (p.375), 2項 超音波検査 (p.375-376), 3項 CT検査 (p.376), 4項 MRI検査 (p.376-377), 5項 内視鏡検査 (p.377-378), 6項 心電図検査 (p.378-380), 10項 核医学検査 (p.388-389), 11項 基礎代謝検査 (p.389), 12項 呼吸機能検査 (p.389-390)
			d 経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO ₂ 〉の測定、血糖測定	6	基礎看護技術 18章3節8項 血液検査 (p.382-384), 4節4項 ME機器の取り扱いとモニタリング (p.395-397)
			e モニタリング機器の取り扱い	3	基礎看護技術 18章4節4項 ME機器の取り扱いとモニタリング (p.395-397)

目標Ⅲ 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	出題数※	小項目	出題数※	ナーシング・グラフィカ 該当箇所
6 看護の役割と機能	A 看護の場に応じた活動	2	a 在宅における看護活動	0	看護学概論 10章3節3項 多職種で取り組む保健・医療・福祉 (p.209) 地域療養を支えるケア 1章2節3項 在宅看護の役割・機能 (p.25-26), 4節 在宅看護活動の特徴 (p.26-29)
			b 医療施設における看護活動	1	看護学概論 10章 保健・医療・福祉システム (p.220)
			c 保健施設と福祉施設における看護活動	0	看護学概論 10章 コラム 医療施設における看護活動と保健福祉施設における看護活動 (p.220)
	B 保健・医療・福祉の連携と継続看護	1	a 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能	0	看護学概論 10章3節2項 チームの中における看護者のコーディネート機能 (p.205) 臨床看護総論 3章6節2項 医療チームにおける各職種の役割 (p.154-157)
			b 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	0	看護学概論 10章3節3項 多職種で取り組む保健・医療・福祉 (p.205-210) 看護をめぐる法と制度 1章 チーム医療と法の構造 (p.39) 公衆衛生 5章7節 ネットワークの意義と活用 (p.94-98)
			c 施設内・施設間における継続看護	0	看護学概論 11章2節2項 同一施設内での継続看護 (施設内における継続) (p.226), 3項 施設から施設への継続看護 (施設間における継続) (p.226)